

湖東地域障害者自立支援協議会

各専門部会

- ・ 令和 4 年度活動報告
- ・ 令和 5 年度活動計画
- ・ 令和 5 年度予算書

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

地域移行部会

活動目標(令和4年度)
① 「地域移行支援」に伴う対象者の検討と医療機関との共有化 ② 長期入院化に伴う、社会資源の開発、啓発 ③ 医療機関、福祉事業所相互の状況把握
取り組んだ事柄
① -1 病院から入院患者さんの現状の聞き取りを行う。 ① -2 高齢の方の入院患者さんが多いことをつたえる場として高齢障害者支援部会と合同部会を行う。 ② 自閉症の方のアセスメントツールの特性確認シートの説明を行う。
取り組みによる成果
① 病院内で高齢の方の長期入院患者さんが多い状態を障害、介護両分野の方と共有することができた。 ② 特性確認シートの研修会に病院から看護師、作業療法士、精神保健福祉士の方が参加して共有することができた。
令和4年度以降の方向性
○ 長期入院患者さんの実態把握を行い、情報共有を行う。 ○ 精神科高齢入院患者様の事例などを通じて、退院に結びつけられるよう高齢障害者支援部会と共同する。 ○ 他の部会と協働しながら、地域課題の解決、個別事例の退院支援を行う。 ○ 研修会の実施

湖東地域障害者自立支援協議会 地域移行部会

令和5年度部会活動計画

1.目的

○精神科病院の入院患者、障害児者入所施設や矯正施設等の利用（入所）者の地域への移行が円滑に取り組めるように、地域移行における多様な課題を抽出していき、湖東地域における社会資源の開発を検討する。

2.令和5年度活動計画

○定例会部会：年12回

➤ 個別支援会議：4月6月8月10月12月2月

- 退院支援対象者のケース検討

➤ 圏域推進会議：5月7月9月11月1月3月

- 個別事例から精神障害者の地域生活支援の各種サービスの充足状況や各種サービスの問題点の把握を行う。
- 退院に向けた病院、地域の支援を考える。
- 啓発・連携体制構築、人材育成等の研修の企画実施等を行う。

○研修会の実施：秋ごろ

- オフィス夢風舎 舎長 土屋 徹氏を講師にお招きし、当事者主体の地域移行について研修する。

○他部会との連携

- 高齢入院患者さんの現状、地域移行について障害高齢者支援部会と連携を行う。
- 退院後の日中支援の場所として就労移行部会と連携を行う。

○日中支援サービス支援型の共同生活援助事業者との連携

3.課題

①長期入院者の実態を把握し、入院が長期化する前の段階で地域移行支援につなげて行く必要がある。

②入院中から病院と地域が退院を見越した支援を行うことができるように取り組みを進める。

③精神科高齢入院患者の地域移行が進んでいない為、退院先を調整する必要がある。

④本人の病状や社会性に適応した住まい（GH、施設等）や地域サービス確保に向けてた取り組みが必要である。

4.構成メンバー（部会員）

彦根保健所・彦根市・ステップアップ21・まな・豊郷病院・滋賀県精神保健福祉センター

5.体制

部会長（木村和弘：ステップアップ21） ※部会長のみで副部会長なし

部会員（11人）

事務局（彦根保健所・ステップアップ21・まな）

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 地域移行部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	60,000	
計	60,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	30,000	研修会講師費用
旅費	30,000	研修会講師交通費
需用費	0	
使用料および賃借料	0	
役務費	0	
計	60,000	

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

居宅サービス部会

活動目標(令和4年度)
湖東地域において、障害のある方が安心して在宅生活を続けられるよう支援するために、地域の居宅サービスの提供状況を把握する。 湖東地域の居宅サービス事業所間の情報交換や研修の機会を企画実施する。
取り組んだ事柄
① 定例会8回実施 ZOOM型にて実施 ② 令和4年5月全体会で令和2～3年度に行ったアンケート結果の報告 ③ 湖東地域居宅サービス事業所「社会資源マップ」の更新 (各事業所の時間曜日別の空き情報に関するシートを追加) ④ 居宅サービス事業所間の情報交換を主目的とした「居宅介護事業所意見交換会」の立ち上げ ⑤ R4年11月「利用者からのハラスメントに関する研修」を企画実施
取り組みによる成果
① 新規の事業所からの参加があった ② アンケート結果を地域で共有できた ③ 社会資源マップを更新し、地域の計画相談事業所へ情報提供を行った ④ 課題検討会とは別立てで「居宅介護事業所意見交換会」を立ち上げた。より気軽に参加し普段支援のなかで感じていることや他の事業所へ聞きたいこと等を情報交換や共有交流できる場をもてた ⑤ 利用者からのハラスメント研修会を実施し、障害や介護分野の関係者34事業所から47名の参加(事務局除く)を得た。
令和5年度以降の方向性
○令和2年度3年度実施した相談支援専門員、居宅系事業所向けアンケート調査課題を継続検討 ○社会資源マップ更新 ○情報交換を主目的とした「居宅介護支援事業所意見交換会」の継続。HPを立ち上げ求人情報の発信や事業所間で情報交換できるチャットツール等のたちあげ検討 ○利用者からのハラスメントに関する研修～演習編～(仮)実施 ○人材不足への取り組み

令和5年度（2023年度）活動計画

1 目的

湖東地域において、障害のある方が安心して在宅生活を続けられるよう支援するために、地域の居宅サービスの状況を把握するとともに、地域で取り組める課題について検討する。

その課題解決にむけて必要な対応や提言を行う。

2 令和5年度活動計画

定例部会：年8回（6月、8月、3月は休会、11月は研修会）

課題検討会5回 意見交換会3回

第3木曜日 午前10:00～11:30

ZOOMオンラインもしくは集合型（地域生活支援センターまな）

1) 活動予定

- ・湖東地域居宅系サービス事業所「社会資源マップ」の更新（年1回）
各事業所の時間曜日別の空き状況に関するシートを追加
- ・R4年度より開始した居宅サービス事業所間の情報交換を主目的とした「意見検討会」継続
- ・居宅サービスに関する困難ケース等事例検討会
- ・人材不足への取り組み

2) 研修予定

- ・テーマ 「利用者からのハラスメントに関する研修～演習編～」(仮)
- ・日時 令和5年11月
- ・講師 関西医科大学准教授 矢山 壮 先生

4 構成メンバー

圏域内の居宅サービス事業所

彦根育成会・彦根市身体障害更生会・集まろう会

彦根市・愛荘町・地域生活支援センターまな

湖東地域障害者自立支援協議会事務局

5 体制

部会長	ステップアップ21 村元氏
副部会長	千歳会 居原田氏
事務局	愛荘町地域福祉課担当者 地域生活支援センターまな

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 居宅サービス部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	40,000	湖東地域障害者自立支援協議会
計	40,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	30,000	講師謝礼
旅費	5,000	講師交通費
需用費	5,000	研修会、定例会、社会資源マップ関連 印刷郵送費
使用料および賃借料		
役務費		
計	40,000	

湖東地域障害者自立支援協議会 令和4年度 労働部会 活動報告

労働部会

活動目標(令和4年度)

- 第1回定例会 福祉サービス事業所と学校・施設等との情報交換会
【6月20日(月)13時30分～15時30分 於;豊郷町役場(3階会議室)】参加者48名
- 『～湖東地域で生活する障害のある人への福祉サービスの充実を目指して～』第1回シンポジウム
【11月4日(金)13時30分～ 於;ビバシティ彦根2階 ビバシティホール】参加者64名
基調講演『国と県の最新の障害者施策の動向について』講師:県障害福祉課 課長 長谷川貴也氏
シンポジウム『相談支援から見る湖東地域の現状と課題』
<シンポジスト>
滋賀県地域若者サポートステーション 河田 晃平氏
彦根市少年センター 子ども・若者総合相談窓口 中島 妙子氏
湖東地域基幹相談支援センター ステップアップ21 木村 和弘氏
- 労働部会 拡大事務局会議
【令和5年2月13日(月)15時～16時30分 於;ホテルサンルート彦根 2F八千代 参加者15名
県障害福祉課、彦根市障害福祉課、ハローワーク彦根など参加
湖東圏域のサービス提供状況における相談支援体制について懇談

取り組んだ事柄

- 事業所経営状況をアンケート調査
- 8回の部会役職会議を重ねて、就労選択支援(制度)等を学び論議
- 県・市障害福祉課、ハローワークなどと合同で就業支援の圏域でできる仕組みを考えた
- 湖東圏域の事業所関係者

取り組みによる成果

- 事業所で導入する訓練(作業確保と遂行)や活動内容について、アンケート調査回答からは就業力向上とその機会の創設を切に望んでおられると思われる。支援体制や作業環境は充実せず、企業からの報酬は安価になる。作業提供情報などは労働部会から発信し共有していることではあるが、事業所一団体では到底応えていくことが出来ない。
- 初めてシンポジウムを実施して、事業所同士の横のつながりを形成していくことが出来た。これを維持していくことが大切と感じる。
- 部会拡大役職会議では、次年度モデル事業導入も図られる就労選択支援事業について議論する。

令和5年度以降の方向性

- 湖東圏域の日中活動する多様な事業所が集まり学習し、それぞれの活動内容における情報交換をする機会を引き続き作っていく。この機会を通じて日頃から、連携して活動ができるような関係性を作っていく。
(予定)定例会;6月開催、第2階シンポジウム;11月開催

湖東地域障害者自立支援協議会
労働部会 令和5年度活動計画

【目的】

障害のある人たちの働く・活動する意欲の向上と、これに関わる願いに応えていくことのできる地域づくりを目指します。障害者の働くこと・暮らすことを支援する事業所間での情報共有と学習・連携が取れる地域づくりを目指します。

【令和5年度計画】

湖東圏域の日中活動する多様な事業所が集まり、学習し、それぞれの活動内容における情報交換をする機会を作っていく。この機会を通じて日頃から、連携して活動ができるような関係性を作っていく。

(予定) 定例会；6月開催、シンポジウム；11月開催
事業所見学会等検討

【課題】

多くの事業所関係者が参加できるようにしていく

【構成メンバー】

圏域内の障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型、就労移行、就労継続支援B型、生活介護）、ステップアップ21、地域生活支援センターまな、彦根学園（相談）、相談支援センターあおい、相談支援事業所かいぜ寮、相談支援センターあすなろ、ぽぽ相談室、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、湖東健康福祉事務所、甲良養護学校、愛知高等養護学校、長浜北星高等養護学校、鳥居本養護学校、県立盲学校、信楽学園、近江学園、県立聾話学校、働き・暮らしコトー支援センター、湖東圏域内普通高等学校、滋賀県社会就労事業振興センター 等
(追加) サロン活動事業所、日中一時支援事業所、ハローワークなど

5、体制

部会長 : 棕梨氏 (働き・教育センター甲良)

副部会長: 高松氏 (Job lead)、森口氏 (あじさい福祉会)

事務局 : 豊郷町、働き・暮らしコトー支援センター、HEARTWORK 結

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 労働部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	145,000	湖東地域障害者自立支援協議会
計	145,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	10,000	研修会講師謝礼(5,000円/30分×(時間)×4回)
旅費	10,000	研修会講師旅費
需用費	5,000	研修会講師水代、用紙代、報告書印刷代
使用料および賃借料	100,000	研修会会場使用料
役務費	20,000	郵送代、手話通訳手数料、振り込み手数料
計	145,000	

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

行動障害部会

活動目標(令和4年度)
○行動障害のある人たちの課題について、地域と事業所が連携して実態を把握し、両者の要望や期待の調整をはかり、行動障害のある人達が安心して暮らせる方法を検討する。
取り組んだ事柄
○支援の質の向上 WG:「在学時から卒業後までの切れ目のない支援」を実現するため、甲良養護学校の先生方との研修会、ケース検討を行った。1 ケースについて、相談支援事業所や生活介護事業所とも連携し、縦断的なケース検討と講師からの講評を受けるという形での研修会を学校の先生方と行うことができた。 ○社会資源の整備・開発 WG:前年度に一市四町あてに「行動障害のある人の生活・活動に関する要望書」を提出。要望書の中に「強度行動障害者対応短期入所人員配置加算」についての要件緩和を求める部分があり、人員配置に代わる具体的な要件について事業所の意見を聞く場を持った。 ○年に3回部会を開催し、参加事業所から昨今の行動障害のある人の支援についての地域課題について聞く機会を持った。
取り組みによる成果
○研修に学校の先生が参加されることで、統一した特性シート等の使用の重要性や、在学中からの当事者の特性、関わり方についての連携が卒業後にも生かされることの大切さを共有できた。 ○「強度行動障害者対応短期入所人員配置加算」の加算要件として、看護師・生活支援員の配置に「宿直者対応を可とする」旨が追加された。彦根市が中心となり、要件緩和に取り組んでいただいた結果と捉えている。 ○圏域全体の問題として人材不足が突出しており、サービスを縮小・休止する事業所が出てきたことで、行動障害がある人の日中・余暇活動の組み立てがより難しくなっている状況を共有した。
令和5年度以降の方向性
○学校と卒業後の受け入れ先をつなぐ統一したツールの使用について、縦断的なケース検討を小学校、中学校の先生方ともおこない、支援者が代わっても継続される安定的なサービス利用につなげる取り組みを続ける。 ○「強度行動障害者対応短期入所加算」について、人員配置に代わる具体的な加算要件を引き続き検討し、行政との話し合いを行う。 ○人材不足という課題に対応する取り組みの一つとして、「行動障害がある人」の実態把握とともにサービス提供事業所へのアンケートを行い、「どのような援助（加算を含む）があれば行動障害がある人を受け入れられるか」を整理する。

湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会

令和5年度部会活動計画

1.目的

○行動障害のある方たちの課題について、地域と事業所が連携して実態を把握し、両者の要望や期待の調整をはかり、行動障害のある方たちが安心して暮らせる方法を検討する。

2.令和5年度活動計画

○部会を年に4回程度開催し、課題解決に向けた協議検討を継続して行う。

○学校在籍時から卒業後への切れ目のない支援を行うことをめざし、学校～事業所との連携ができるよう、ケースを通じて学ぶ機会を作る（認証ケアマネ事業、アセスメントシート、特性シート等の活用）。

○定期的に研修を行い、関係機関や事業所等の知識、支援技術の向上の機会を設ける。

○これまで部会で行った調査結果等をもとに、行動障害のある方の日中活動や住まいの場に関する具体的な対応や方法を検討していく。

参考) 部会で行った調査について

- ・短期入所サービスに関するアンケート調査
- ・グループホーム運営等アンケート調査
- ・就労継続支援B型事業所における行動障害のある人の受け入れに関する調査
- ・生活介護事業における行動障害のある人の受け入れに関する調査
- ・行動障害のある人の実態調査（行動援護 短期入所）

3.課題

○社会資源の開発 WG：人材育成・人材確保

サービスの継続に必要な「財政的支援」や「制度」

グループホーム等の立ち上げに関するもの

「日中活動の場」に関するもの

○支援の質の向上 WG：「個別支援会議」の開催方法や質の向上（認証ケアマネジメント支援事業）

教育機関と福祉事業所との具体的な連携の方法

在宅福祉サービス（行動援護等訪問系サービス）に関するもの

4.構成メンバー（部会員）

ステップアップ21 甲良養護学校 彦根学園 たんぽぽ作業所 セルプひこね れんげはうす

杉の子作業所 NPO ぽぽはうす (福) 喜創会 彦根市障害福祉課 かいぜ寮

※参加を希望される事業所等

5.体制

部会長：かいぜ寮寮長 守時康裕 副部会長：なし

事務局：彦根市障害福祉課 相談支援事業所かいぜ寮

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 行動障害部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	54,000	
計	54,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	40,000	研修会講師謝礼(2回分)
旅費	6,000	研修費講師旅費(2回分)
需用費	3,000	資料および印刷代
使用料および賃借料	2,000	研修会等解錠使用料(2回分)
役務費	3,000	資料等郵送代
計	54,000	

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

児童 部会

活動目標(令和4年度)

- 湖東地域における障害児童の「個の育ちを保障する」ために事業所、学校、地域と連携して「安心かつ健全な地域生活」と「個人の意志が尊重される取組」のために活動する。
また、子どもを取り巻く多様な課題について事業所間で情報共有し、解決に向けて取り組む。

取り組んだ事柄

- 事例研修会…年3回：6月・11月・3月（2月より変更）
- 研修会…10月21日（金）「家族支援の技とコツ～子ども達の安全・安心な生活を目指して」
講師：菅野道英様 内容：児童虐待について、
- 事業所説明会…「子どもの福祉サービス説明会」
→コロナウイルス感染防止のため、集合型での開催に変えて「事業所紹介」と「子どもの福祉サービスと手続きについて」のビデオをYouTubeにて配信した。

取り組みによる成果

- 事例研修会では事例提供事業所の困りごとをグループワークで検討し、改善案やアドバイスなど発言に意見交換がなされた。また、同じような困りごとを複数の事業所が抱えていることもわかり、学校や行政との協議が必要なことについては、今後報告書作成→協議に取り組んでいくことを確認した。
- 研修会には88名の参加があった。「児童発達」についてだけでなくこどもの発達や家庭支援、事例に対してのアドバイスなどがあり、参加者からは虐待に対する支援や対象児に対する見方、行政との連携などについて改めて知り考える機会になったという意見があった。また、研修については保護者や教員にも一緒に聞いていただきたいという意見もあった。
- 「子どもの福祉サービス説明会」は10月に配信を開始し、約100回の再生回数があった。参加（視聴）希望については小学校の先生や圏域外からの申し込みもあった。保護者の方から、会場開催では参加が難しかったが配信で参加しやすかった、事業所を決めるときの参考にしたいという意見が多く聞かれた。

令和5年度以降の方向性

- 「子どもの福祉サービス説明会」…来年4月に小学校入学する児童の保護者を主な対象者とし、
 - ・7～8月ごろ事業所紹介ビデオをYoutube配信
 - ・9月9日（土）午前 事業所説明会（集合型）開催 の2本立てでおこなう。
- 研修会を開催…「行動障害について」日時・講師等未定
※参加案内を学校等にも出し、研修を通して学校との連携を深める機会とする。
- 前年度に引き続き、各事業所の質の向上を図るために、実践報告や事例検討、困りごとの報告などの事例研修会を年2回（11月・2月）実施予定。
- 事業所からの意見・要望を取りまとめ、報告書の提出、関係機関との協議に取り組む。

湖東地域障害者自立支援協議会 児童部会
令和5年度活動計画

1.目的

○湖東地域における障害児童の「個の育ちを保障する」ために事業所、学校、地域と連携して「安心かつ健全な地域生活」と「個人の意志が尊重される取組」のために活動する。

また、子どもを取り巻く多様な課題について事業所間で情報共有し、解決に向けて取り組む。

2.令和5年度活動計画

○部会…原則概ね3か月に1回開催し、事業所間の情報交換及び各課題に向けた協議検討を行う。

○研修…事例検討会・講演会の開催

・事例検討会…各事業所の資質の向上のため、部会と同日に事例検討会を開催する。

(部会・研修会開催日) 4月24日(月)…部会のみ 6月26日(月)…部会・説明会ビデオ撮影
11月27日(月) 2月26日(月)…部会・事例検討会

・講演会…テーマ「行動障害について(仮)」日時未定

○事業所説明会…利用者へのサービスについての理解・周知のため、未就学児の保護者向けに動画配信、事業所説明会を開催する。

★動画配信…6月26日(部会時)に撮影、7~8月ごろYouTubeにて配信開始予定

★事業所説明会…日時: 9月9日(土) 会場: 甲良町保健福祉センター

3.課題

○養護学校や地域の学校、行政機関などとの連携について

・講演会の案内を学校にも出す・事業所の取り組みを知ってもらう機会をつくるなど、連携に向けた取り組みを進める

4.構成メンバー(部会員)

- 彦根市発達支援センターあすなろ教室・うきうきクラブ・うきうきホーム・キッズグロース・きらめき
 - こぱんはうすさくら彦根教室・コペルプラス南彦根教室・さくらは一と・さくらんぼ・サマホリくらぶ
 - 放課後等デイサービス 慈円・GIRAFFE なないろくらす・つむぎ・なかまーず・にこにこルーム
 - はばたき・ひなたぼっこ・ひまわりくらぶ・ふぁみりい・ぽぽハウス・まつぼっくり・まつぼっくりII
 - もののお庭・りんごの木・愛犬つくし教室・か〜む・杉の子クラブ・スマイルキッズ・ハッピーキッズ
 - Child Support りんりん・どんぐりのいえ・ループ
 - 滋賀県立甲良養護学校・湖東地域障害者自立支援協議会・ぽぽ相談室・甲良町
- ※その他、必要に応じて参加を希望する関係機関、関係事務所

5.体制

部会長: か〜む 幹事: スマイルキッズ つむぎ 杉の子クラブ

アドバイザー: はばたき さくらは一と 事務局: ぽぽ相談室 甲良町

任期: 2022.4.1~2024.3.31 (2年間)

※役に就く者が事業所の所属を外れた場合は、同一事業所内で後任を決める

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 児童部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	65,000	湖東地域障害者自立支援協議会
計	65,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	20,000	研修会講師謝礼(講演2時間分)
旅費	5,000	研修会講師旅費
需用費	30,000	研修会講師水代、事業所説明会案内チラシ・資料印刷代 等
使用料および賃借料	10,000	研修会会場使用料
計	65,000	

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

重症心身障がい児者に関する部会

活動目標(令和4年度)
<p>○令和3年度にアンケート調査を実施したことを受け、部会で積み上げてきた課題整理とともに、アンケート調査から見えてきた課題の検討を進めていく。</p> <p>○2019年重心部会の提言以降、制度化された医療的ケア児者にも対応した24時間対応型利用制度支援事業について、令和3年度にモデル的に具体的な運用（2事例）が出来たことを受け、再度制度の課題等の検討を行うとともに、より制度の定着を図るために、利用の促進、進捗の確認を行っていく。</p> <p>○『湖東地域で重症児者の暮らしの支援にあたる支援者のための研修・交流会』を開催する。 コロナ禍で昨年度は開催できなかったが、研修・交流会は部会で毎年継続して取り組んでいることから、現場での実践や取り組み等の発表や意見交換の場（研修会）を企画する。</p>
取り組んだ事柄
<p>○定例会は（5月、7月、2月）の3回行った。</p> <p>○4年度は児童WGと成人WGに分けて、それぞれの時期に課題となることについて話し合った。 児童WGは5回（うち1回は成人WGと合同）、成人WGは3回それぞれ開催した。</p> <p>○児童WGは児童発達・放課後等デイサービスの実態と課題について事業所にアンケートを実施。</p> <p>○成人WGは短期入所、レスパイトの実態と課題について圏域内、圏域外の担当者に集まって頂き、意見交換を行った。圏域外についてはZOOMで実施した。</p> <p>○圏域内の相談支援員全員に重心児者、医療的ケア児者の計画相談において感じている課題についてアンケートを実施した。</p> <p>○令和3年度のアンケート結果をもとに11月19日多賀結の森にて「地域で安心して生活するために～湖東圏域の現在と未来をめざす～」と題して立命館大学田村和宏教授の基調講演とアンケート結果の報告、シンポジウムの研修会を行った。57名の参加があった。</p>
取り組みによる成果
<p>○当事者・当事者家族の参加として部会のメンバーに全国医療的ケア児支援協議会滋賀支部（びわちゃん丸）の代表者に入っただき、各場面で意見を頂けた。</p> <p>○研修におけるシンポジストにも2名のご家族に登壇していただき、ともに地域づくりについて考えることができた。ご家族の生の意見を聞いて良かったという参加者のご意見が多く寄せられた。</p> <p>○コロナ禍で集合型にしたこともあり、参加人数が伸びなかったが、令和3年度にとらせていただいたアンケートについての報告を地域に向けて行えた。</p> <p>○児童と成人のWGに分かることで、それぞれの時期に課題となっていることに集中して議論することができた。</p> <p>○県内（圏域外）の短期入所、レスパイト入院担当の方と一緒に会して意見交換をする場を始めて持つことができ、それぞれの施設・病院の現状を知り、湖東圏域の現状も知っていただくことができた。</p>

令和4年度以降の方向性

○令和5年度は4年度の児童WG、成人WGを継続する。それぞれ4年度話し合っていた児童発達、放課後等デイ、短期入所、レスパイト等についての課題を深めていく。

○医療的ケア児者にも対応する24時間対応型利用制度支援事業、訪問看護派遣事業について制度整備後4年経過するため、利用事例を振り返りながら課題の整理を行う。

○圏域内で福祉、教育、保育、医療、就労等をつなぐ医療的ケアコーディネーターが、県の重心児者・医療的ケア児者支援センターと連携して重層的な支援の体制を作っていけるよう地域づくりを進める。

湖東地域障害者自立支援協議会 重症心身障害児者に関する部会

令和5年度部会活動計画

1.目的

本部会では、湖東地域において、重症心身障害児者等の方々が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会環境作りを目指す。そのために当事者や地域社会が抱える暮らしの課題について、行政・事業所・施設・医療などの関係機関が連携し、情報共有や実態を把握する。

当事者等の課題や要望の把握から、改善・解決に向けた地域資源の開発・検討に取り組む。

2.令和5年度活動計画

○部会定例会を開催する。部会定例会議開催予定：5月、2月（計2回開催）年度当初と年度末

○部会を二つのワーキンググループ（WG）に分けて課題を協議する。児童WG・成人WG

それぞれのWGに事務局が入り、開催日程を調整する。

令和4年度に引き続き、検討する議題は各WGの中で設定する。

○2019年重心部会の提言以降、制度化された医療的ケア児者にも対応した24時間対応型利用制度支援事業について、継続した運用を進めていく中で、課題を整理していく。

○医療的ケア児等コーディネーターとの連携を図り、地域の課題を共有し、課題解決に向けて共に検討していく。

○当事者や当事者家族が参加できる研修会の企画を検討する。また、支援者間の横のつながりができるように研修会や交流会を企画する。

3.課題

○児童期と成人期で取り巻く環境、課題に違いがあるので、WGを組織し、課題検討を進める。

児童期（児童発達支援や放課後等デイサービスの利用、看護師などの人員確保の困難さ等）

成人期（短期入所等の緊急時の対応や生活の場、GH等の不足、通所や送迎、入浴資源の課題等）

4.構成メンバー（部会員）

せいふう 彦根市発達支援センター 森のお家（ふぁみりい）

滋賀県立甲良養護学校 湖東健康福祉事務所（彦根保健所） ステップアップ21

びわこ学園 葦の舟 じゅう楽

訪問看護ステーション連絡協議会第5支部 滋賀県医療的ケア児者等家族会びわちゃん丸

※部会やWGの議事内容により、圏域内外の関係機関に参加の依頼をする。

5.体制

部会長：森のお家（ふぁみりい） 柴田氏

事務局：彦根市障害福祉課・相談支援事業所ちゃれんじ・相談支援事業所てんしん

令和5年度湖東地域障害者自立支援協議会 重心部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	80,000	湖東地域障害者自立支援協議会 補助
計	80,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	50,000	研修会・研究会講師謝礼(5,000円/30分)
旅費	10,000	講師旅費等
需用費	20,000	印刷代、部会資料代、事務備品等
使用料および賃借料	0	
役務費	0	
計	80,000	

湖東地域障害者自立支援協議会

令和4年度 部会活動報告

障害高齢者支援部会

活動目標(令和4年度)
<p>○定例会を開催する。座長、事務局の求めにより、必要に応じて追加会議を開催する。</p> <p>定例会議開催予定：6月、8月、11月、令和5年2月に開催。</p> <p>湖東地域において、障害高齢者の方々が安心して暮らせる社会環境作りを目指す。そのために当事者や地域社会が抱える課題について、障害福祉分野・介護福祉分野双方の行政・事業所等の関係機関が連携し、情報共有や実態把握を行い課題解決に向けて取り組む。</p>
取り組んだ事柄
<p>【1】 障害者自立支援協議会および介護保険事業者連絡協議会について</p> <p>そもそもそれぞれの協議会がどのようなものなのか、どのような活動を行っているのか説明した。</p> <p>また、今年度の活動として事例検討、連携方法の模索等を行うことになった。</p> <p>【2】 事例検討を通して障害から介護への移行に関して必要なことは何か考える</p> <p>知的障害の方で障害から介護への移行を行った方のケースを扱った。</p> <p>【3】 事例検討を通して障害から介護への移行に関して必要なことは何か考える</p> <p>湖東圏域の相談支援事業所の計画相談員を対象に障害から介護への移行に関するアンケートを実施し、その結果を報告した。また、精神障害の方で65歳の年齢到達により障害から介護への移行を行おうとしたが、移行を行えなかった方のケースを扱った。</p> <p>【4】 事例検討を通して障害から介護への移行に関して必要なことは何か考える</p> <p>地域移行部会と合同での部会を行った。地域移行部会から病院の精神科の入院病棟の現状等の説明があり、意見交換の中で、65歳以上でも障害福祉サービスを柔軟に利用できないかという発信があった。</p>
取り組みによる成果
<p>○8月、11月、令和5年2月に事例検討会を実施し、障害から介護への移行に関して必要なことは何か意見交換を行った。知的障害の方の事例で移行ができたケース、精神障害の方の事例で移行ができなかったケースを扱った。また、精神科入院病棟の患者の高齢化の現状を知ることができた。他に湖東圏域の計画相談員を対象にしたアンケートを実施し、移行に関する課題の抽出等を行った。</p> <p>主な意見や課題</p> <ul style="list-style-type: none">・計画相談員からケアマネジャーへ引き継いで終わりではなく、移行後もその都度、双方で連携していく必要があるように感じた。・障害から介護への移行ということで部会を行っていたが、精神科入院病棟で患者の入院が長期化し、高齢化が進んでいるという現状があるので、ケースによっては障害、介護、病院という三者で連携し、対応しなければいけないケースも出てくるのではないかと感じた。
令和5年度以降の方向性
<p>○障害・介護それぞれの支援者、家族、行政等が参加する継続的なケース検討の場の設置を検討する。</p> <p>○具体的な方法、ツールを用いて、障害・介護双方で意見交換等を行い、障害と介護のギャップを埋められるよう努める。</p> <p>○65歳未満の介護サービスを必要とされるケース（第2号被保険者）への対応。</p>

湖東地域障害者自立支援協議会

障害高齢者支援部会

令和5年度活動計画

1 目的

本部会では、湖東地域において、障害高齢者の方々が安心して暮らせる社会環境作りを目指す。そのために当事者や地域社会が抱える課題について、障害福祉分野・介護福祉分野双方の行政・事業所等の関係機関が連携し、情報共有や実態把握を行い課題解決に向けて取り組む。

2 令和4年度活動計画

- 部会定例会を開催する。部会長、部会事務局の求めにより、必要に応じて追加会議を開催する。
部会定例会議開催予定：6月、8月、11月、2月（計4回開催予定）
- 部会定例会の間の月に、事務局会議を開催する。事務局会議にて、部会定例会に図る議題の整理やデータ収集、整理、または課題集約等を行う。
部会事務局会議開催予定：5月、7月、10月、1月
- 障害福祉サービスから介護保険サービスへと移行される（併用も含む）事例検討を行い、双方のサービス内容や特長への理解を深める。その中で、ケースの状況変化に対応するサービス調整に関して、共通した連絡ツール等情報共有するためのシステムについて検討する。
- 施設見学会または学習会を行い、他分野の理解を深める。

3 構成メンバー（部会員）

- ・当事者家族・障害福祉事業所・相談支援事業所・一市四町障害福祉担当者
- ・介護保険事業所、介護支援専門員・基幹相談支援センター・その他協力機関

※協力機関は、部会の議事内容により招集を依頼する。

4 体制

部会長	相談支援事業所てんしん 廣田氏
部会事務局	多賀町、相談支援センターあおい

令和5年度 湖東地域障害者自立支援協議会 障害高齢者支援部会 予算書

収入の部

(単位:円)

項目	金額	備考
補助金	40,000	湖東地域障害者自立支援協議会 補助
計	40,000	

支出の部

(単位:円)

項目	金額	備考
報償費	20,000	研修会・研究会講師謝礼(5,000円/30分)
旅費	0	講師旅費等
需用費	20,000	印刷代、部会資料代、事務備品等
使用料および賃借料	0	研修会会場使用料
役務費	0	アンケート等郵送代、振り込み手数料等
計	40,000	